

特集号のご案内
SNS・ネット・書籍などを活用した
一般の人への医療科学コミュニケーションの最前線
The Vanguard of Medical Science Communication to the General Public:
Leveraging Social Media, the Internet, and Publications

市川 衛^{1) 2)}
Mamoru Ichikawa^{1) 2)}

1)広島大学医学部 (公衆衛生学)

1)Department of Public Health, School of Medicine, Hiroshima University

2)一般社団法人メディカルジャーナリズム勉強会

2)Association of Medical Journalism, General Incorporated

2023 年 10 月に開催された第 2 回日本医学サイエンスコミュニケーション学会学術集会のシンポジウムでは、「SNS、ネット、書籍などを活用した一般の人への医療科学コミュニケーションの最前線」をテーマに、デジタルメディアの進化と医学情報の伝達方法に関する新たな挑戦が紹介され、医学と一般市民とのコミュニケーションの重要性が強調されました。

本特集ではその 3 つの講演内容をもとに、各講演の演者による総説を掲載します。

「医学サイエンスコミュニケーション」の領域として、以下の三点が示されています。

-
- ・医学者が市民に医学を伝え、市民の医学リテラシーを高めること。
 - ・市民が自身の医学に関する考えを医学者に伝え、医学者の社会リテラシーを高めること。
 - ・医学者と市民が、医学と社会の関係について共に考察すること。
-

1 つ目の総説では、忽那賢志氏 (大阪大学) に、SNS やインターネット記事を用いた医学情報の効果的な伝達方法について解説頂いています。特にインフォデミックの時代における正確で信頼性の高い情報の伝達の必要性を指摘し、SNS とインターネット記事を用いたコミュニケーション戦略の重要性が強調されています。

2 つ目の総説では、山本健人氏 (北野病院、京都大学) により、書籍「すばらしい人体」を例に挙げ、医学情報の書籍を通じた伝達の有効性について解説頂いています。専門的な知識を一般の人々にわかりやすく伝える際に、そのいわば「翻訳者」である「編集者」や「出版社」の協力を仰ぐことの重要性を浮き彫りにしました。

3 つ目の総説では、若宮翔子氏 (奈良先端科学技術大学院大学) により、Twitter (現 X) のツイートの言語的特徴を用いた指向性推定の可能性を解説いただきました。SNS 上の情報の流れとその影響をより深く理解し、言語的特徴を分析することで、ツイートの指向性や影響力を予測する新たな方法論の可能性が示されています。

本シンポジウムの内容、および本特集号の総説は、医学と社会の関係を深める、より良い医療コミュニケーションの実現に向けた重要な論点を明らかにしています。今後も、医学サイエンスコミュニケーションの普及発展、そして研究や実践へのご協力、ご指導を頂ければ幸いです。